

## 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 13	公益目的事業 17
主査名	河野達仁 東北大学教授	
研究テーマ	建物の高さや道路幅員を考慮した電線地中化の便益計測	
<p>近年、東京オリンピックや相次ぐ震災の影響で、景観面や防災面の観点から無電柱化がわが国で注目されはじめている。多くの外国人が観光でわが国の各地を訪れる現在、海外に向けても景観向上の効果は大きい。さらに、わが国では矮小な道路も多く、道路上の電柱が地中化される便益は、景観のみならず自動車や歩行者の交通環境の改善、さらには災害時の安全性にもつながる。</p> <p>このような観点から平成29年度に電線地中化の便益計測の研究を日本交通政策研究として行った。本研究は、その研究を発展させて、電柱便益の大小に影響する要因を抽出して、今後の整備政策に有用な情報を得ることを目的とするものである。</p> <p>平成29年度の研究成果として、電柱地中化の便益が地域間で大きく異なることがわかった。これは、おそらく地域間で、これまで電柱地中化された場所の建物の高さや道路幅員が異なることが想定される。そこで、本研究では、建物の高さや道路幅員の影響を定量的に把握する研究を行う。</p> <p>電柱地中化計測の方法としては、顕示選好データである地価を用いるヘドニックアプローチを引き続き用いる。実際、申請者の研究以外にもいくつかの既存研究がある。海外では、Abelson (2010) が、Canberra における地中化の価値をクロスセクションのヘドニックで推計しており、その値は一世帯あたり US\$12,350 (ストック) であった。また、足立ら(2011) が大阪市の住宅地を、大庭(2020)が京都を対象に分析している。なお、地価に反映する便益のみを今回の研究プロジェクトでは捉えることにする。また、住宅地における電柱地中化のみを対象とする。</p> <p>最終的には、今回精緻に行ったヘドニックアプローチから世帯ごとの支払い意思額を導出し、電線地中化の費用便益分析を行う。本研究の成果により、どのような道路で電柱地中化を進めるのが便益が高いかを判断することができる。</p> <p>なお、ワークショップやセミナーを開催し、広く意見交換を行いながら研究を進める。</p>		